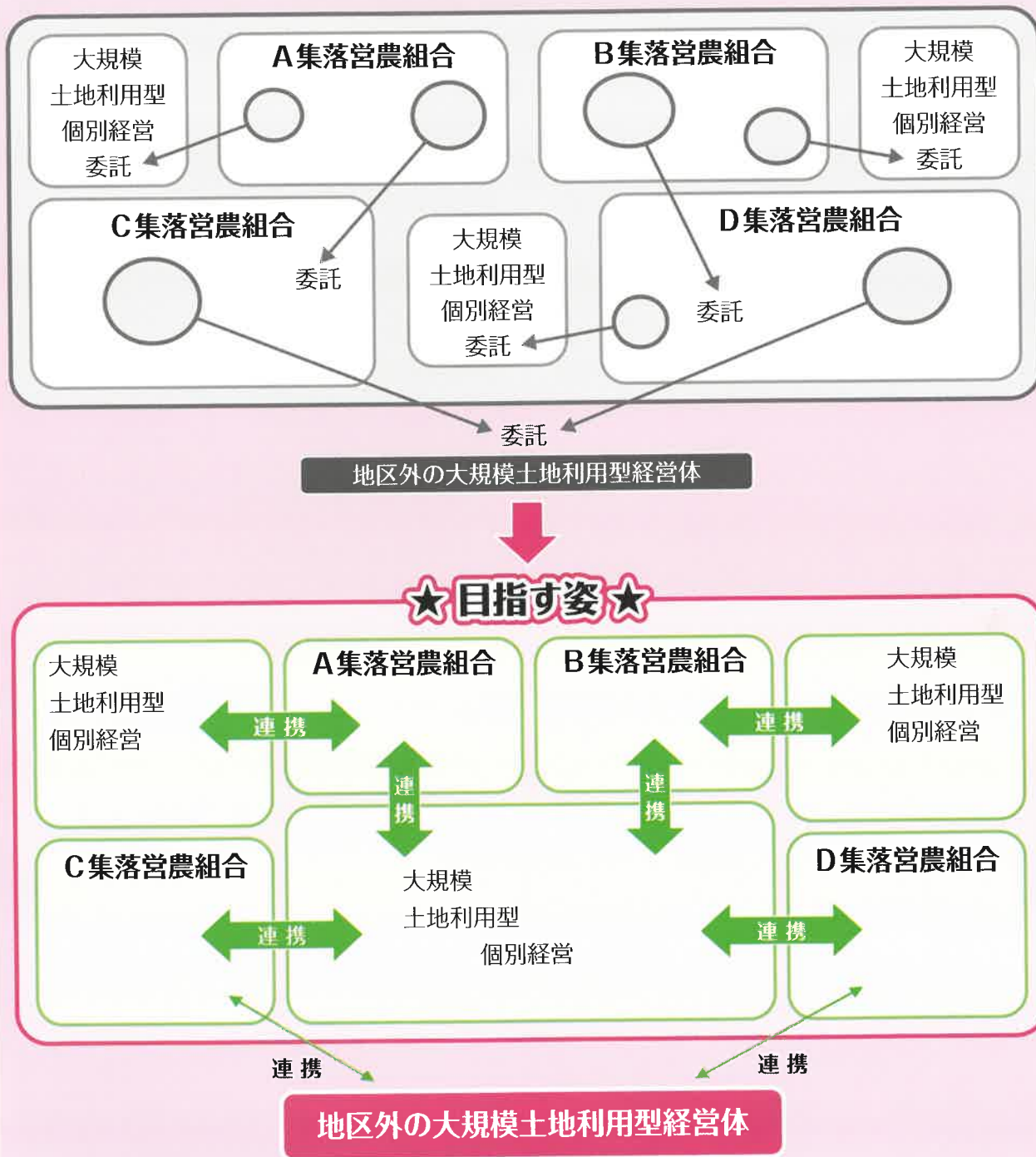


これからの集落営農組織について、「連携」に取り組んでいる事例をご紹介します。

事例1：4つの集落営農組合が大規模土地利用型経営体と連携して集落の農地を守ります（真岡市清水地区）

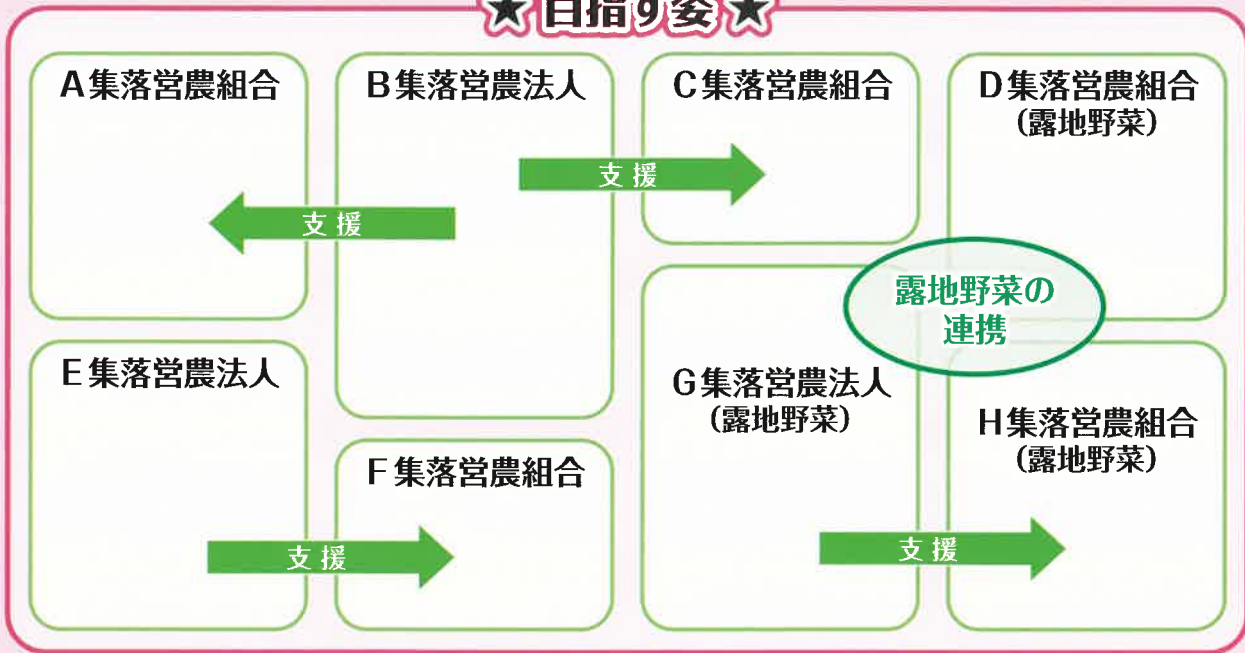


◎4集落営農組合が集まって、集落農業の維持について話し合いを行いました。

【令和2年1月20日開催】

事例2：8集落営農組織の連携（支援）により地域の農業を守っていきます。
（益子町）

★目指す姿★



◎益子町の土地利用型農業は、集落営農組織が中心となって動いています。

8集落営農組織が集まって、話し合いを行い、今後は、互いに連携しながら、土地利用型農業を担っていくこととなりました。

【令和2年9月28日開催】



◎小泉・本沼地区で畑中心の圃場整備事業に取り組んでいます。

新品目「しょうが」の栽培に取り組み、加工・業務用取扱業者と契約取引しています。

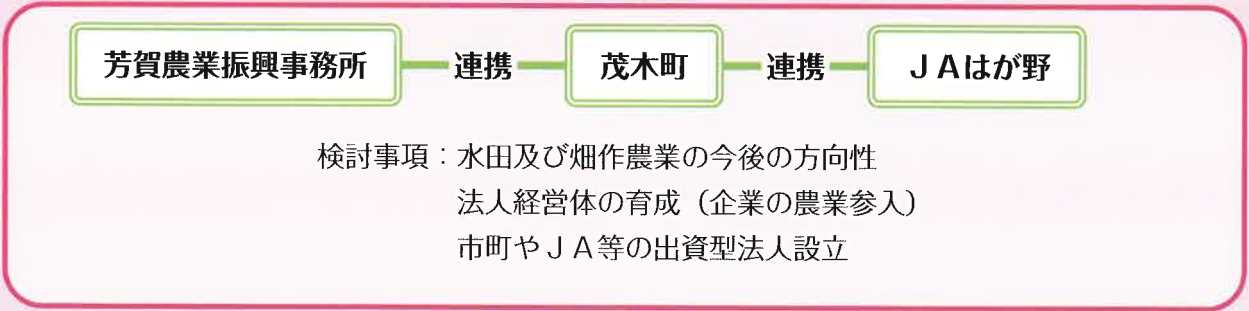
令和10年度には、5ヘクタールの作付面積を目指しています。



◎農事組合法人星宮組合で「栃木県型地下かんがいシステム実証（補助暗渠）」により、「たまねぎ」を作付し、効果実証に取り組んでいます。

【令和2年10月12日～13日施工】

事例3: 集落営農組織と個人担い手で今後の水田及び畑作農業を検討します。(茂木町)



◎茂木町の土地利用型農業は、高齢化が進み、担い手が少なく、危機的状況になっています。

今後は、水田と畑作の経営体それぞれで具体的な方向性を検討することとなりました。

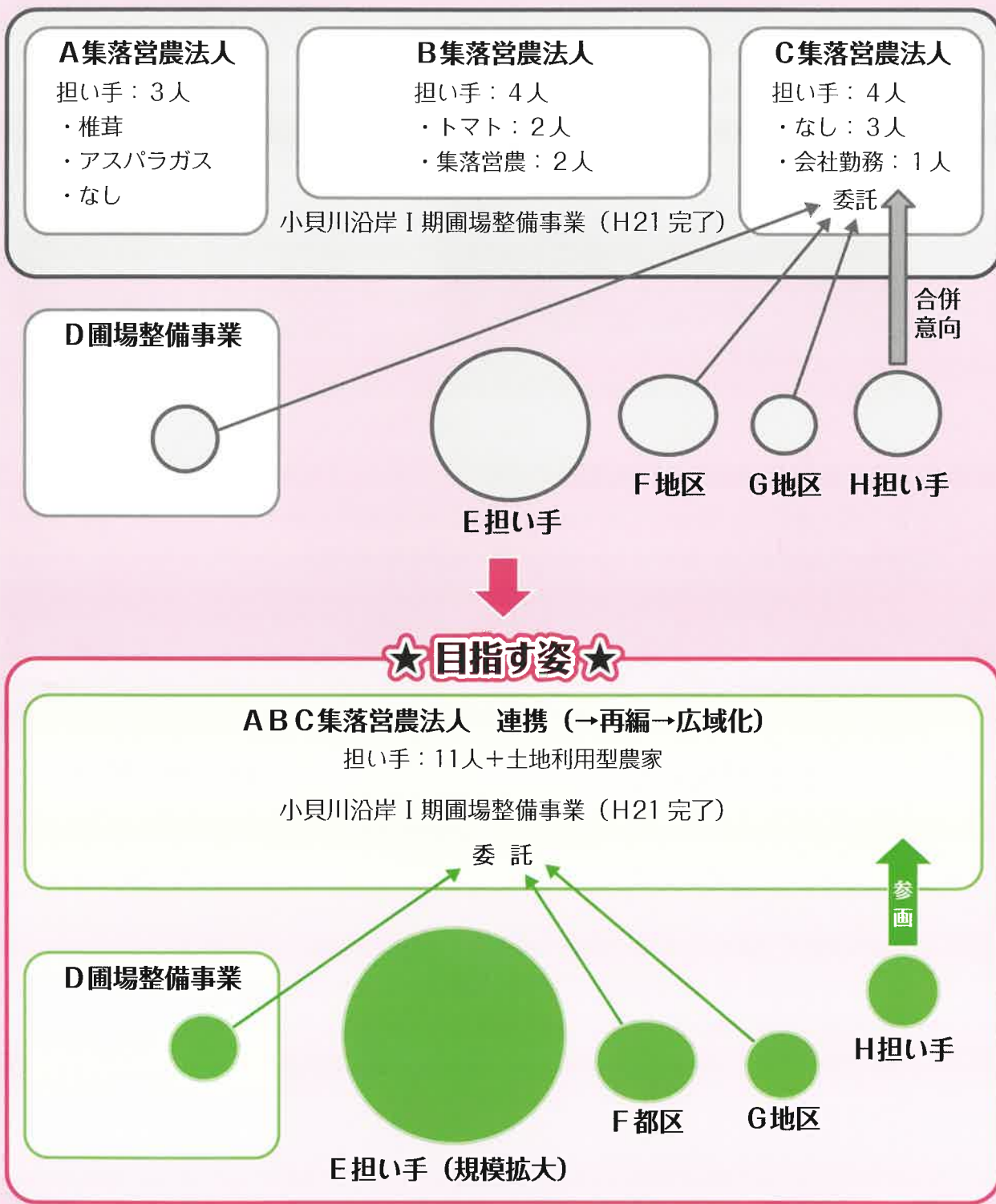
【令和2年8月6日開催】



◎茂木町の2集落営農組合と3個人担い手が参集して、今後の水田農業の方向性を検討しました。

茂木町の水田は、茂木町の集落営農組織と農業者で守ることを基本に、定期的に話し合いすることとなりました。【令和2年12月9日開催】

事例4：3集落営農法人等が連携（→再編→広域化）に向けて動きます。
 （市貝町小貝地区）



◎市貝地区小貝地区の3集落営農法人、集落営農組織、個別担い手が集まって、話し合いを行いました。
 今後は、3集落営農法人と個別担い手が連携（→再編→広域化）に向けて、50歳代以下の農業者で勉強会を開催し、話し合いを重ねていきます。
 【令和2年7月22日開催】